

令和7年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【慈恩寺中学校】

⑥	次年度への課題と学力向上策
知識・技能	
思考・判断・表現	

①	今年度の課題と学力向上策	
	学習上・指導上の課題	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	<学習上の課題> 令和6年度実施のさいたま市学習状況調査の結果から、知識・技能に関わる問題の正答率が低い箇所がある。 <指導上の課題> 基礎・基本的な知識・技能を定着する活動の充実に課題が残った。	⇒ ・授業の中で前時の復習の時間を設けたり、単元のまとめとして小テストを実施したりすることを通して、基礎学力の定着を図る【毎時間】 ・週2回のスタディタイムを実施し、基礎学力の定着を図る【週に2度】 ・テスト期間に合わせてスタディサプリの活用を促し、家庭学習習慣の定着を図る【年に5度】
思考・判断・表現	<学習上の課題> 複数の根拠をもとに自分の考えをまとめたり、自分の考えを論理的に表現したりすることが困難な場面が見られる。 <指導上の課題> 自分の考えを論理的に表現したり、異なる意見と折り合いをつけて解決したりする方法を探したりする機会が少ない。	⇒ ・各教科の授業において、単元の特性に応じて話し合い活動や自由進度学習を適宜取り入れ、自分の考えをまとめる活動を実施する頻度を増やす【毎時間】 ・昨年度に引き続き、学級会の機会を活用して生徒が自らの考えを表現することができるように指導していき、キャリアプランニング能力の育成につなげる【1か月に1度程度】

⑤	評価(※)	学力向上策の実施状況
知識・技能		
思考・判断・表現		

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	
思考・判断・表現	

1 結果分析(管理職・学年主任等)
2 詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	
思考・判断・表現	

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	学力向上策の実施状況	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能			
思考・判断・表現			

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

令和6年度版「学力向上ポートフォリオ（学校版）」【慈恩寺中学校】

⑥	次年度への課題と授業改善策
知識・技能	スタディサプリなどの学習ツールや各授業での復習を積極的に活用し、基礎学力の定着を図ることができた。しかし、各テストの結果を分析したところ、生徒間での習熟度に大きな差があると考えられる。今後は、個人の習熟度に応じた問題演習を実施するとともに、生徒自身が現状を把握した上で目標を定め、それに向かって努力を重ねる姿勢を育成することも必要であると考えられる。
思考・判断・表現	学級会や各授業内で話し合う活動を増やしたことにより、令和6年度さいたま市学習状況調査の「授業で、学級の友達との間で話し合う活動では、話し合う内容を理解し、相手の考えを最後まで聞き、自分の考えをしっかりと伝えていると思いますか。」という項目で、昨年度を上回る結果を得ることができた。しかし、テストにおいては「相手に伝わるように論理的に自分の意見をまとめる」という分野に苦手意識がある。そのため、論述のためのフレームワークを導入し、練習を行う必要がある。

①	今年度の課題と授業改善策	
	学習上・指導上の課題	授業改善策【評価方法】
知識・技能	【学習上の課題】 令和5年度実施のさいたま市学習状況調査の結果から、知識・技能に関わる問題の正答率が低い箇所がある。 【指導上の課題】 基礎・基本的な知識・技能を定着する活動の充実に課題が残った。	⇒ ・授業において単元ごとの小テストや前時の復習に取り組む。【毎回実施】 ・単元計画を示す。また授業内目標の提示を行う。【毎回実施】 ・授業後にスタディサプリを活用した復習を促す。【運用率80%以上を達成する。】
思考・判断・表現	【学習上の課題】 自分の考えを論理的に表現することが困難な場面が見られる。互いの意見のよさを生かして解決方法を見出す力が弱い。 【指導上の課題】 自分の考えを論理的に表現したり、異なる意見と折り合いをつけて解決する方法を探したりする機会が少ない。	⇒ ・生徒が自らの考えを表現する機会を学級討論の時間を活用し、キャリアプランニング能力を育成する。【月1回以上】 ・自分の意見を表現するための「枠組み」を作り、段階的に練習をする。 【令和6年度さいたま市学習状況調査「授業で、学級の友達との間で話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、自分の考えをしっかりと伝えていると思いますか。」の項目において、授業中の授業の割合を前年度結果より向上させる。】

<小6・中3>（4月～5月）

⑤	評価（※）	授業改善策の達成状況
知識・技能	B	各教科において、単元計画や授業内目標の提示を行った。また、スタディサプリを活用した復習を促し、年間を通してアクティブ率80%以上を達成することができた。
思考・判断・表現	A	各学年で月に1回以上、学級会を実施することができた。令和6年度さいたま市学習状況調査の「授業で、学級の友達との間で話し合う活動では、話し合う内容を理解し、相手の考えを最後まで聞き、自分の考えをしっかりと伝えていると思いますか。」という項目において、昨年度よりも4ポイント向上させることができた。

※評価 A 8割以上（達成） B 6割以上（概ね達成） C 6割未満

②	全国学力・学習状況調査結果について（分析・考察）
知識・技能	国語、数学ともに全体的に無回答の割合が減った。しかし、国語の「文脈に即した漢字を書く問題」や、数学の「文字を用いた式で表す問題」のように依然として無回答率が高い箇所もあることが現状である。現在、基礎学力の定着のためにスタディサプリ等を活用した学習や、授業での小テストや復習に取り組む活動を行っている。これらの取組をさらに進め数値の向上を図る。
思考・判断・表現	国語、数学ともに、「自分の考えを書く」「根拠を用いて説明する」という問題の無回答率が高い。昨年度の全国学力・学習状況調査においても、同内容における無回答率が高いことから学校全体の課題である。現在、「自分の意見を表現するための練習」を校内で研究しており、次のさいたま市学習状況調査の結果を踏まえて、更なる工夫・改善につとめていく。

①結果分析（管理側・学年主任等）

②詳細分析（学年・教科担当）

④	さいたま市学習状況調査結果について（分析・考察）
知識・技能	各教科において、全体的に無回答率を減らすことができた。しかし、複雑な知識を問う問題や知識の定着を測る問題では、不正解率や無回答率が依然として高い。そのため、基礎的な内容に加え、個々の理解度に応じた反復練習を行う必要がある。
思考・判断・表現	各教科において、「自分の意見を相手に伝わるように表現する」「与えられた情報から推測し考察する」といった問題の正答率が低く、無回答率も高かった。そのため、論理的に自分の意見を組み立てるための練習を段階的に行う必要があると考えられる。

③	中間期報告		中間期見直し
	評価（※）	授業改善策の達成状況	授業改善策【評価方法】
知識・技能	B	各教科において単元計画や、授業内目標の提示を行った。またスタディサプリを活用した復習を促した。現在アクティブ率は86%であるため、さらに向上できるよう努める。	変更なし
思考・判断・表現	B	各学年で月に1回以上、学級会を実施することができた。また、学級会の中で自分の意見とその理由を考え、ワークシートに記入する時間を設けることができた。それを受けて、クラス全員が納得解に導く取組を行っている。	変更なし

※評価 A 8割以上（達成） B 6割以上（概ね達成） C 6割未満